

八重原地区ふれあい文化祭 4年ぶりの開催!

館報 八重原

第 127 号

 編集・発行
 館報編集委員会
 八重原公民館
 君津市南子安9-17-2
 TEL 0439 (55) 1840
 FAX 0439 (55) 1940

八重原地区人口

 令和4年9月末日現在(前号比)
 男 12,232 (- 8)
 女 12,067 (- 3)
 計 24,299 (- 11)
 世帯数 11,741 (+ 31)

 八重原公民館のHPでは各種
 情報を発信しています。


11月12日(土)・13日(日)に開催

2,500人を超える方が来館されました!

久しぶりの

再会とふれあい

八重原公民館を会場に4年ぶりとなる「第26回八重原地区ふれあい文化祭」が開催されました。テーマは「輝け八重原!はばたけ未来へ!」4年ぶり地域のひとと元氣な出会い!です。

一日目、音楽・芸能発表では八重原中学校の吹奏楽からスタートし、地区内の小学校の合唱や、公民館利用サークルの演奏や歌謡、ダンスの発表があり、満席になるほどの方が発表を楽しみました。催し物では、囲碁体験、スクエアダンス体験、さまざまな体験があり、多くの方が体験をし、サークルの方と話をしながら楽しめました。

二日目は、ラテンジャズや、弦楽合奏、フルート等の演奏や舞踊の発表があり、迫力ある発表を楽しむことができました。催し物では、卓球広場、君津ふるさとかるた大会があり、子どもたちが多く参加し、サークルのみなさんが優しく基礎を教えていました。

展示部門では、絵手紙、和紙ちぎり絵、折り紙、消しゴムはんこ、陶芸、絵画、俳句、幼稚園・保育園・小中学校の作品展示があり、力作ぞろい

で見たたえのあるものばかりでした。その他にも地域活動の成果発表があり、学びの多い展示でした。

また、実行委員会が「探訪クロスワードクイズ『めぐりマス』」を企画。各会場をめぐり、ヒントを見つけクイズを解いていく内容で、難問が多かったこともあり、サークルの人にヒントをもらうなどして、来館者との会話のきっかけになっていました。

河野実行委員長は、「交流、ふれあい、久しぶりの再会ができてうれしかったという場面を見ました。同じ地域の中でもコロナ禍では対面するのも難しい中、地域の祭典の必要性を感じました。個性豊かな展示作品、心励まされる音楽・芸能の発表、そして感動の再会、笑顔がいっぱいでき、有意義な文化祭でした。今回は4年ぶりの開催でしたが、来年に向けてパワーアップして、毎年絶えることなく開催できることを願っています。」と、閉会のあいさつで締めくくられました。



河野実行委員長



映像で参加された団体も

サークルの迫力ある演奏や発表

子どもたちが一生懸命に発表

文化祭ハイライト

スクエアダンス体験

なぎなた体験

盛況だった探訪クロスワードクイズ

各会場で交流が生まれました

消防車に子どもたちは大喜び

白熱した「君津ふるさとかるた大会」



『算法自在』江戸時代

昔は紙がとても貴重で、真っ黒になるまで筆で重ねて書いて、日にかいて、また使ったそうです。

○そろばん
今でいう「算数」です。昔は、そろばんのやり方を覚えることが算数の勉強でした。掛け算九九も書いてあります。



『消息往来』江戸時代



『開化小学用文』明治時代

四 〇 往來物
「往來」とは手紙のやり取りをさす言葉です。昔は手紙の書きかたが書かれたものが教科書として使われていました。これで字を読むこと・書くことを学びました。

八重原地域再発見
お寺は昔、学校だった!?

その2

蓮久寺住職 江口 隆晶

○私が小学生時代の八重原（昭和62年〜平成4年）



当時の校門
現八重原公民館の入口付近



当時の学校の見取り図

※当時は1クラス40人で6クラス。同級生が240人。全校児童が1200人以上。

昭和40年代、新日鉄で働く人たちが、全国から君津に引っ越してきたため、「団地」が作られて、小学校の生徒の数が一気に増えました。



【一番多い時】団地41棟
家族数1,456戸
人数 6,535人

【当時の遊び】

（SNSアンケート結果）

- 1位 缶けり、
- 2位 秘密基地、
- 3位 どろけい
- その他 色鬼、高鬼、お手玉、竹馬、メンコ、ザリガニつり、キックベース、ゴムとび 等

地域の情報を大募集!

サークルや団体の会員募集や催し物のお知らせなど、地域の情報を募集しています。

館報は6・9・12・3月に発行します。掲載希望の情報がありましたら、2カ月前の3週目までに八重原公民館にお気軽にご連絡ください。下記 QR の投稿フォームからも送ることができます。

(内容や紙面の都合により掲載できない場合がありますので、ご了承ください。)



八重原地区内の 保育園が民営化へ

内箕輪保育園と南子安保育園が今年度をもって閉園し、新たに民営化され(仮称)内箕輪どろんこ保育園と(仮称)コスモスの丘南子安保育園が開園することになりました。現在、両保育園とも建設工事が進んでいます。

長年、地域の子育て環境を支えてきた内箕輪・南子安保育園の特集を次号予定しています。両保育園の思い出ばなしや写真などありましたら、1月までに八重原公民館にお寄せください!

寺フェス蓮久寺 開催!



11月27日に蓮久寺にて寺フェスが開催されました。

この日のために境内に作られた舞台では、地域の団体、公民館利用サークル、中学校や高校等が出演し、会場を盛り上げていました。また、体験や販売、飲食の出店もあり、来場された方がゆっくりと楽しんでいました。一日通して多くの方が集まり、賑わっていました。

主催した寺フェス実行委員会では、お寺を活用した地域コミュニティづくりや、老若男女、みんなが楽しめるイベントにしようという思いで準備をされてきたそうです。その言葉どおり、会場内では楽しく交流する様子がたくさん見られました。

今年のテーマに掲げた「結YUI」のとおり、様々なところでご縁がつながる催しとなったようです。



八重原百景



「公民館からの夕焼け」Yさん

みなさんからの地域の魅力あふれる写真をお待ちしています!

■投稿方法

フォームで投稿する場合

右のQRからフォームにアクセスしてください。

メールで送信する場合

件名…八重原百景

①お名前(ニックネーム可)

②お住まい(字名のみ)

③写真タイトル

を記入の上、こちらに送信してください。

yaehara-k@city.kimitsu.lg.jp

持参する場合

八重原公民館窓口までお持ちください。

※人物や個人の所有物が映っている場合は被写体から応募について承諾を得てください。



かけはし文庫

おすすめの
本紹介

● 砥上裕將 作

7.5グラム
の奇跡※7.5グラムとは
眼球の重さです

本書の主人公は「僕は、人の瞳を見つめるのが好きなんです。」と就職の面接で語り、北見眼科病院の採用を決めた野宮恭一君である。

内容は「不器用だから一つのことを打ち込みたい!」と視能訓練士になった野宮君が、北見先生や同僚に支えられながら色々な患者さんと出会い、心を通わせながら成長していく1年間を描いたものです。

私が砥上氏の作品を最初に読んだのは『線は、僕を描く』（かけはし文庫にあります）で、水墨画を極めようとする若者を主人公に描いた作品で、大好きな本の1冊です。

本作は、同様に若者が成長していく作品であり心温まる作品になっていると思います。ぜひ読んでみてください。

BOOKサロンかけはし 山口



刈ること
に……。約
3時間か
けて全て
刈り取る
ことがで
きました。
今年は
昨年より

今年度、新たにスタートした本事業は、未就学のお子さんを育てているお父さんを対象に、子育てのことや、家事のことを学んだり、仲間づくりを進めるための講座を開催しています。君津地区を中心に8名のお父さんが参加しています。

5月に植えた稲は田んぼ一面を黄金色にし、たくさんの実がなりました。9月に稲刈り開催。慣れない鎌を使いながら親子で一生懸命に収穫をしました。一部、機械での作業を予定していましたが、トラブルによりほとんどを手で

親子米作り教室

秋の公民館事業の紹介

も収穫量が増えてたくさんのお米が参加者に配られました。

当日の様子はYouTubeで配信していますのでご覧ください。



やえはらパパひろば

初回は「主夫」をされている方を講師としてお招きし、子どもにとってのお父さんの役割やかかわり方を学びました。参加されたみなさんは、子育てや家庭のことに対して積極的に参加をしたいという方ばかりですが、日中は仕事が多く、週末でしか関わることができないという状況の中で、講師のお話を伺い、ヒントを見つけたようでした。

あうたか
ふれあいサロン

地域のつながりづくりや、介護予防や孤立防止、外出の機会づくりの活動を行っている「君津東地区かまちよろ」主催で、10月に「あうたかふれあいサロン」を開催しました。



当日は八重原地区の方を中心に14名が参加し、お茶を飲みながら交流をしました。途中、認知症予防のミニ講座やレクリエーション、オカリナ演奏に合わせ歌を歌ったりと、楽しい企画もあり、和やかな雰囲気になりました。

今後も偶数月に開催を予定しています。自治会回覧でお知らせしますので、ご近所のお友達と一緒にご参加ください。

また、活動にご協力くださる協力者も募集しています。ご興味ある方は、八重原公民館にご連絡ください。

当日の様子はHPでご紹介しています。下のQRコードを読み込んでご覧ください。



まちかど川柳募集

- 人生は 親の愛から スタートす
- 病気とは 生きてる証拠 挫けるな
- 白線は消え 砂利道の様な 車道行く
- 子が二浪 座頭市（外箕輪） 妻が過労で 俺苦労
- 俺だよと 言った妻の手 清水久元

■ 投稿方法
メールで送信する場合

件名…まちかど川柳

①ペンネーム

②住まい（字名のみ）

③一句（五・七・五）

を記載の上、こちらに送信してください。

yachara-k@city.kimitsu.lg.jp



持参する場合

用紙に記入し、公民館ロビーにある「まちセンボックス」に投函してください。

編集後記

公民館主催事業「家庭で伝える性の話」に参加し尊重と同意の大切さを再考、社会でさらに直視すべき課題との思いを強くしました。参加者が少なく残念!!ふれあい文化祭では多くの参加者ににぎわいましたが、公民館は「活動する人がいる」ことで機能が充実されます。貴方も自分に合った何かを発見し学びませんか? (M)